

医学教育の国際対応

松川 昭博

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 医学教育リノベーションセンター, 病理学 (免疫病理)

Internationalization of medical education

Akihiro Matsukawa

Medical Education Renovation Center, Department of Pathology and Experimental Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences

米国で医師を目指す海外の医学部卒業者の増加に伴い、その質の担保が大きな課題となり、ECFMG (Educational Commission for Foreign Medical Graduates: 米国の医業資格審査機関) は2010年9月、「2023年以降、国際基準の認証を受けていない医学部の卒業生にはECFMGの受験を認めない」と宣言した(2023年問題)。わが国の医学教育の水準は高く、全国統一のコア・カリキュラムやCBT/OSCEの運用など、質保証にも努めている。日本の医科系大学卒業生で、米国の医師国家試験を受験する人数は毎年50~60人程度であり、ECFMGの宣言が日本の医学教育に直接的な影響をもたらすわけではない。しかし、グローバル対応を怠ると世界から孤立する。「2023年問題」への対応を、継続的に医学教育の質を高めるための良い機会と捉え、国際的な観点から日本の医学教育の質を保証するために国際認証を受けるべきとの気運が急速に高まった。2012年度大学改革推進委託事業「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」(文部科学省)が始まり、モデル校を対象にトライアル認証評価事業が開始され

た。2013年7月、グローバルスタンダードに準拠した「医学教育分野別評価基準日本版」が公表され、2015年12月、医学教育を査定する公的機関として一般社団法人「日本医学教育評価機構(JACME: Japan Accreditation Council for Medical Education)」が設立し、各大学の医学教育を認証する体制が構築された。2017年3月、JACMEは世界医学教育連盟(WFME: World Federation for Medical Education)から国際基準に基づく評価機構として認証された。今後、JACMEから評価・認定された国内の大学はFAIMER (Foundation for Advancement of International Medical Education and Research)に登録することで、国際認証を得ることになる。2017年8月現在、JACMEの認証評価を受審した大学は21大学(トライアル受審18校含む)であり、うち1校は国際認証を獲得、残り20校(岡山大学含む)は国際認証に向けたプロセスが進んでいる。今後、毎年10校前後の審査が実施され、2023年までにわが国の全医学部の認証評価が完了する予定である。

分野別評価の実際

受審する大学は、医学教育分野別評価基準日本版に準拠し、9領域36下位領域の基本的水準と質的向上水準の全72項目について自己点検評価

の作成を行う(表1)。特に、医学部の使命・卒業時アウトカムが明示されているか、教育プログラムが適切に構築され、評価されているか、教育を効果的に実施できる資源は十分か、統合型教育は実践され、成果が

表1 自己点検評価項目

1. 使命と学修成果
 - 1.1 使命
 - 1.2 大学の自律性および学部/学部の自由度
 - 1.3 学修成果
 - 1.4 使命と成果策定への参画
2. 教育プログラム
 - 2.1 プログラムの構成
 - 2.2 科学的方法
 - 2.3 基礎医学
 - 2.4 行動科学と社会医学, 医療倫理学と医療法学
 - 2.5 臨床医学と技能
 - 2.6 プログラムの構造, 構成と教育期間
 - 2.7 プログラム管理
 - 2.8 臨床実践と医療制度の連携
3. 学生の評価
 - 3.1 評価方法
 - 3.2 評価と学習との関連
4. 学生
 - 4.1 入学方針と入学選抜
 - 4.2 学生の受け入れ
 - 4.3 学生のカウンセリングと支援
 - 4.4 学生の参加
5. 教員
 - 5.1 募集と選抜方針
 - 5.2 教員の活動と能力開発
6. 教育資源
 - 6.1 施設・設備
 - 6.2 臨床トレーニングの資源
 - 6.3 情報通信技術
 - 6.4 医学研究と学識
 - 6.5 教育専門家
 - 6.6 教育の交流
7. プログラム評価
 - 7.1 プログラムのモニタと評価
 - 7.2 教員と学生からのフィードバック
 - 7.3 学生と卒業生の実績
 - 7.4 教育の関係者の関与
8. 統括および管理運営
 - 8.1 統括
 - 8.2 教学のリーダーシップ
 - 8.3 教育予算と資源配分
 - 8.4 事務と運営
 - 8.5 保健医療部門との交流
9. 継続的改良

医学教育分野別評価基準日本版(Ver.2.2)準拠

平成29年8月21日受理
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
電話: 086-235-7141
FAX: 086-235-7148
E-mail: amatsu@md.okayama-u.ac.jp

上げられているか、学生の自己学修力は十分か、学生を適切に評価しているか、診療参加型臨床実習が充実しているか、自立的にPDCAサイクルが機能し、継続的改良が行われているか、について自己点検が必要となる。学生の教育への参画やIR (Institutional Research) の設置も求められる。受審大学は、自己点検評価報告書とその根拠となる資料集をJACMEに提出し、それらは6～8名の評価委員に送付される。評価委員は書類調査を精査したあと、5日間の実地調査により、医学部関係者との討議(報告書の確認、質疑)、施設・授業の視察、若手教員、学生、研修医等との面談を行う。評価委員は報告書を作成し、実地調査の最終日に医学部教職員・学生に向け講評を述べる。書面による評価報告書は、後日、医学部に送付・フィードバックされ、医学部からの応答を経て最終報告書が作成される。最終報告書では、全72項目について「適合」「部

分的適合」「不適合」の判定がなされる。最終報告書を受け、受審大学はJACMEに改善計画書を提出する。最終評価結果は、認定、期限付き認定、不認定の3段階となる。評価期間は7年である。

岡山大学の取組と現状

本学は、ECFMGの宣言(平成22年)の前より臨床実習を中心とした教育改革に着手し、臨床実習期間の拡充、参加型臨床実習の推進、早期体験実習の拡充、Student Doctor認定、統一卒業試験導入(平成21年度)、学生による臨床実習前授業(平成22年度)などを実施してきた。平成24年度、大学改革推進等補助金事業「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成・グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実」に採択され(事業名:『脱ガラパゴス!—医学教育リノベーション—』)、グローバルスタンダード対応をはか

り、診療参加型臨床実習を更に推進するための数々の取組みを実行してきた(表2)。平成27年9月に分野別認証評価の受審を申込み、28年4月、JACMEに自己点検評価報告書と根拠資料集を提出、同6月に実地調査を受けた。平成29年3月の最終報告書では、基本的水準36項目中28項目で適合、8項目で部分的適合、質的向上水準では26項目適合、9項目が部分適合となっている(表3)。現在、「改善のための助言」の43項目について、「評価後の改善状況」を記載し、「改善状況を示す根拠資料」を提出するよう求められている。「改善のための助言」はさらなる医学教育の充実・向上のための示唆である。本学の部分的適合の項目数は実施大学の中で最も少なく、岡山大学の取組は極めて高く評価されている。改善報告書の提出期間は、平成30年4月から平成31年3月である。平成30年度内に国際認証を獲得するため、継続的改良を実践している。

表2 岡山大学医学教育改革と分野別認証評価受審にむけた動き

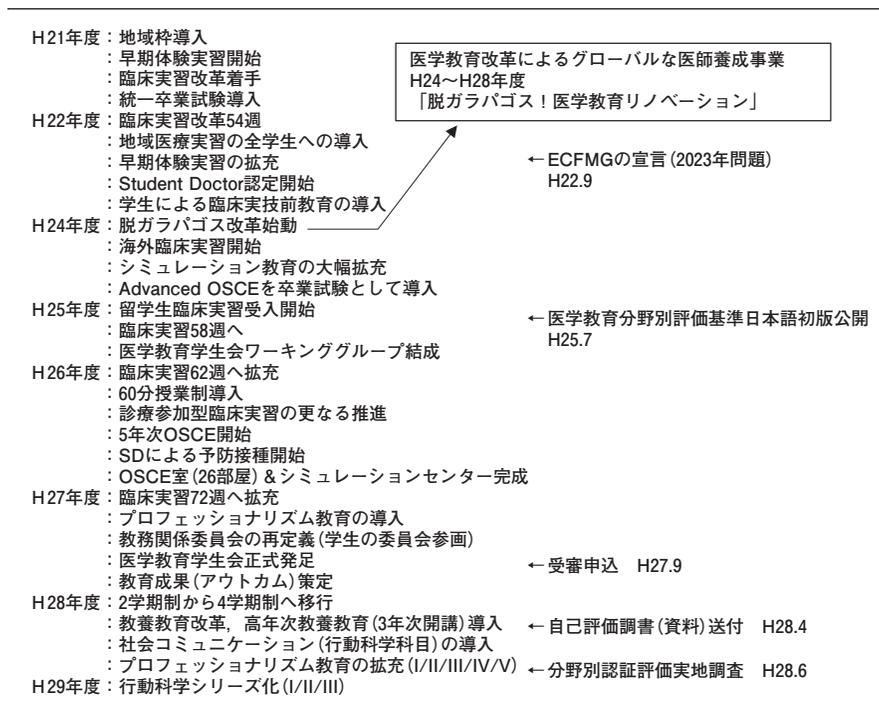


表3 岡山大学医学教育分野別認証評価最終報告書(平成29年3月)

	基本的水準	質的向上水準
領域1 使命と教育成果		
1.1 使命	○	○
1.2 使命の策定への参画	△	△
1.3 大学の自立性及び学部への自由度	○	○
1.4 教育成果	○	○
領域2 教育プログラム		
2.1 カリキュラムと教育方法	○	○
2.2 科学的方法	○	○
2.3 基礎医学	○	○
2.4 行動科学と社会医学および医療倫理学	○	○
2.5 臨床医学	△	○
2.6 カリキュラム構造、構成と教育期間	○	△
2.7 プログラム管理	△	△
2.8 臨床実践と医療制度の連携	○	○
領域3 学生教育		
3.1 評価方法	○	○
3.2 評価と学習の関連	○	○
領域4 学生		
4.1 入学方針と入学選抜	○	○
4.2 学生の受け入れ	○	○
4.3 学生のカウンセリングと支援	○	○
4.4 学生の教育への参画	○	○
領域5 教員		
5.1 募集と選抜方法	○	○
5.2 教職員の活動と能力開発に関する方針	○	○
領域6 教育資源		
6.1 施設・設備	○	○
6.2 臨床トレーニングの資源	△	△
6.3 情報通信技術	○	○
6.4 医学研究と学識	○	○
6.5 教育の専門的立場	○	○
6.6 教育の交流	○	○
領域7 プログラム評価		
7.1 プログラムのモニタと評価	△	△
7.2 教員と学生からのフィードバック	△	△
7.3 学生と卒業生の実績・成績	△	△
7.4 教育の協働者の関与	△	△
領域8 管理運営		
8.1 統括	○	○
8.2 教学の先導(リーダーシップ)	○	○
8.3 教育予算と資源分配	○	○
8.4 事務職と運営	○	△
8.5 保健医療部門との交流	○	○
領域9 継続的改良		評価対象外
	○	
適合(○)	28	26
部分的適合(△)	8	9
不適合(×)	0	0
評価対象外	0	1